

令和6年度第1回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会 議事録

日 時	令和6年6月24日（月） 午前10時から正午まで
場 所	日進市立図書館 視聴覚ホール
出 席 者	佐野 治、藤井 勉、吉井 竜良、小池 由成、鈴木 智恵子、鈴木 国弘、稲垣 幸子、寺田 裕美、櫻井 かおり、中島 五郎、椎葉 梢、牛田 由美子、村野 政章
欠 席 者	無し
事 務 局	祖父江 直文（福祉部長）、高見 紀子（福祉部次長兼地域福祉課長）、野村 圭一（地域福祉課課長補佐）、新海 洋人（地域福祉課福祉政策係長）、櫻木 順子（地域福祉課地域支援係長）、小倉 懸自（地域福祉課地域支援係主査）、春名 俊和（地域福祉課福祉相談係主任）、上野 慎也（地域福祉課福祉政策係主事）、天野 典幸（日進市社会福祉協議会包括支援課長）、福田 有輝（日進市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長）
傍 聴 の 可 否	可
傍 聴 の 有 無	有（6名）
次 第	1 あいさつ 2 わたしのまちのしあわせづくり委員会の趣旨説明 3 議題 （1）委員長、副委員長の選出 （2）第1期にっしん幸せまちづくりプランについて （3）第2期にっしん幸せまちづくりプランについて 4 その他
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・資料1-1、1-2 条例、規則 ・資料2-1 にっしん幸せまちづくりプラン概要版 ・資料2-2 幸せまちづくりプラン実施状況及び実施方針シート ・資料3-1 第2期にっしん幸せまちづくりプランについて ・資料3-2 第2期にっしん幸せまちづくりプラン策定方針 ・にっしん地域福祉フォーラムかわらばん ・にっしん助け合いリビングラボのチラシ 当日資料 <ul style="list-style-type: none"> ・資料4-1 アンケートについて ・資料4-2 アンケート報告書（市民向け） ・資料4-3 アンケート報告書（事業所向け）

発 言 者	内 容
	1 あいさつ
	2 わたしのまちのしあわせづくり委員会の趣旨説明
	3 議題
事 務 局	それでは、議題に入りたいと思います。新しい委員の方も多数お見えですので、各委員の皆様お一人ずつ自己紹介をお願いしたいのですが、今後の重層的支援体制整備事業に関わってくる委員の皆様から普段行っている活動も併せてご紹介いただきますようお願いいたします。
委 員	(自己紹介)
事 務 局	それではただ今の自己紹介を踏まえまして、議題（１）「委員長・副委員長の選出について」に入りたいと思います。 規則第３条第２項において、委員長は委員の互選により定めることとなっております。立候補またはご推薦はございますでしょうか。
委 員	委員長には他市での地域福祉計画の策定委員の経験もあり、地域福祉を専門とされている佐野委員を推薦したいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。
委 員	(異議なし)
事 務 局	それでは、委員長は佐野委員をお願いしたいと思います。 続きまして、副委員長につきましては、委員長からの指名となっておりますので、佐野委員長、副委員長のご指名をお願いします。
委 員 長	では、副委員長は藤井委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
委 員	(異議なし)
事 務 局	では、副委員長は藤井委員をお願いしたいと思います。 それでは、佐野委員長からひと言ご挨拶をお願いします。
委 員 長	(あいさつ)
事 務 局	ありがとうございました。これからの進行については、委員長をお願いいたします。
委 員 長	それでは皆さんよろしく申し上げます。 では、議題（２）「第１期にしん幸せまちづくりプランについて」、議題（３）「第２期にしん幸せまちづくりプランについて」、まとめて事務局から説明をお願いします。 事務局からの説明後、２つの議事に対して、まとめてご意見を伺う形といたしますのでよろしく申し上げます。 それでは、説明をお願いします。
事 務 局	(資料説明)
委 員 長	事務局から説明がありましたが、議題（２）、議題（３）どちらに対してでも結構ですので何かご質問、ご意見等がございましたら、発言をお願いします。

発 言 者	内 容
委 員	<p>学校での支援の仕方としては、子どもの最善の利益を考えて支援をする仕事で、子どもが自分で決定する力をサポートするため先生方や保護者の方とともにネットワークをつくりながら支えています。最近、学校の中だけで解決できる問題はほとんどなく、複合的な課題が増えていると思います。入口が不登校でも背景に、家庭の問題、生活の困窮、ヤングケアラーなど、ソーシャルワークとして学校の中だけで解決できる問題が少なく、指導のみにとどまらず地域の皆さん、他の課の方の力も借りて支援をしています。学校が、相談の入口というお話がありましたが、そのとおりだと強く感じています。</p>
委 員	<p>私は介護の分野で、主に高齢者の方たちの介護保険のお仕事をさせていただいております。介護サービスや訪問介護などの支援を受けている高齢者の方は、ケアマネさんやご家族の方からしっかりと見守られていると思います。一方、私の母は80歳を超えていますが、一人暮らしで原付を運転し生活をしています。今後心配されるのは、こういった自立されている高齢者の方と介護保険でサービスを受けている方との狭間の方々だと感じます。</p> <p>また、子育て世代の方で子どもが小さくて外出できない、特にコロナ禍は買い物に行き辛い、見てくれる人がいないなど、支援の網の目に引っかからない方が実際にいますが、すごいなと思ったのは資料を拝見する中で、多種多様の各事業所のサービス、NPO など網の目の部分をフォローされていると感じました。それでもサービスの目が届かない方の今後の対処が大事だなと思いました。</p>
委 員	<p>日々の実践で毎日通ってくださる利用者は日々の変化も含め支援者の目が届きますが、ご家族しか変化が見られないなど支援機関サービスの支え合いに繋がらない方々がたくさんおられると思っています。就労支援B型や相談など、サービスに繋がらない狭間の方々も繋がる場所があればと数年前に精神の方を対象にフリースペースをやらせていただいた時期がありましたが、周知も含めて外に出ることが課題の方にとっては、そこに出ることさえも辛いことが実際の実践を通してわかりました。</p> <p>また、移動支援でも家族以外とは一人で買い物にもいけない方がたくさんおられ、親亡き後を考えたとときご家族が元気なうちに自立できる支援の必要性を強く感じますが、サービスに繋がらない方々は大きい不安で、どの様に手を差し伸べられるかきっかけが作れるか、日々感じています。今回のアンケートの結果では市民の方が見守り、声掛けならできる数値がとて高いので、これらの課題に繋がればと思いました。</p> <p>家族との繋がりも大切なので家族会を催しますが、家族にもばらつきがあり、面倒だから場に出ることに拒否的になる方もいれば、自ら</p>

発 言 者	内 容
	<p>繋がりを求め参加される方もおられ、温度差を感じながら実践しなければと感じています。</p> <p>体操スポットが記載されていましたが、おそらくゆったり工房も体操スポットに入っていたと思いますが、地域の方々に認知されていない現状があり、また 10 時過ぎに日進体操の時間になるのですが、地域の方々は既に活動されている時間なのではと考えると、地域と繋がるという意味ではいろんな工夫が必要だと思いました。</p>
委 員	<p>私どもは子育て家庭の支援をしています。夫からの DV など避難している方たちのご支援、居住支援もしております。中には自身が持っている問題に心が壊れていて気付いてはいるが上手く表現ができない方、人に問題を話すことも苦手で相談支援に繋げることが難しい方もいます。サービスをお断りされる方などセンシティブな問題だと思えますが、根気強くサポートすることで徐々に変化があります。例えば地域の中でも信頼できる方に心を開く機会があればもう少し幸せを見つけられると思っています。難しい支援ではありますが、地域の中で生活し易くなる支援をしたいと思っています。本人が意思決定できる様、エンパワーメントするのは支援者だからできるわけではなくて、地域の方の何気ない声掛けがその方をエンパワーメントすることもあります。支援者ができることは小さいですが、地域の方との連携が大切だと思っています。子育て家庭の支援も同じで、支援者や地域の方のサポートで元気になって自立され、それがうまく回るにはどうしたらいいか私自身が思っているところです。</p>
委 員	<p>NPO として幅広い活動をしています。困窮者の自立支援の就労準備支援についてお話しします。困窮世帯は個人情報に関係もあって、地域に繋ぐことは難しい問題があります。社会の中で自分の居場所・生き方・自信をつけるなど、自立をしていくまでのプロセスで長い階段があり、やる気が出るかもわからない中、地域・企業と繋がる地域資源は重要だと思います。理解がある起業者の方に、職場見学、体験をする機会を設けていただき、そこで自信をつけて就職するケースもあります。仕事をして働いて稼げばいいという問題ではなく、生き方や沢山の悩みがある方々なので、心のケアが重要だったりします。生活保護被保護者からの脱却も、個の中で閃き自信をつける場面が非常に多く、地域でのボランティア活動と一緒にいく機会も今後必要だと思います。</p> <p>先般、自立支援協議会の方から障害があると思われる方の保護者向けの説明会で、自信をつけ仕事をする気になったときの職場見学や体験は、B 型 A 型の生活介護のノウハウとして進んでいるとのことでした。困窮者も同じ様なプロセスが重要だと考え、増やしていきたいと思えます。皆様方のところにも、見学ボランティアでスタッフとして、</p>

発 言 者	内 容
	<p>参加するだけでも変わるし、もちろん男性、女性、子どもが苦手など特性は利用者によりケースバイケースのパーソナルサポートの支援プログラムとなります。</p> <p>今日お集まりの皆様と有機的な連携の場がここから始まることを望みます。</p>
委 員	<p>まず生活困窮相談件数に驚きました。令和6年度には5830件にしようとのことですが、にぎわい交流館では360件ぐらいですが相談を繋げています。まず、この数字に驚きましたが何人で対応しているのか、CSWさんや支援コーディネーターさんが足りているのかと気になりました。アンケートの結果を見せていただくと28ページの結果は、社会資源が潜在的にあることを示していると感じました。30代40代の方はボランティアをしたい、誰かの役に立ちたい気持ちは半分以上の方が自覚しているが、機会がなく実際には動けないとの結果を研修等で見たとあります。</p> <p>1月ごろ、15人程度の高校1年生がボランティア活動に参加してくれました。ボランティアの意味もわからず、学校から割り当てられて来たその子たちにとっては、ボランティアは、朝が早い、汗をかくとのイメージでした。その後のワークショップであなたの得意なことが、ボランティアにつながるかもしれない、誰かの役に立つかもしれないとの一言でガラッと表情が変わりました。陸上部で走るのが得意だから走り方を教えてあげたいとか、お化粧品に興味があるから、おばあちゃんにお化粧品してあげたいとか、アイデアがワットと出てきて本当に関わり方一つだなって思いました。にぎわい交流館は大勢の人と人を繋いだり掘り起こしたりする大事な場所だと感じています。</p>
委 員	<p>市役所、社協の方々も熱心に福祉に関して行動をされていることが、ここで初めてわかりましたが、市民の末端には熱意が伝わってこないのが実感です。一緒に活動してくれる人を、回覧板でしか周知させることができず、回覧板自体も目を通されていない現状です。アンケートを拝見しますと、やはり10%から20%の方は気づいていて、その倍ぐらいの数字の方が参加したいと思っていることを拝見してとても希望が持てました。私の母の話ですが大分足が弱ってきて、ケアマネさんとデイサービスに見学にいきましたが「ここには行かない」との一言で終わりました。友人に17歳から鬱病の方がいて、ご両親が他界されているので相談に乗り地域に多種多様な施設があるとすすめても行かないという現実もあります。このような方々をどう支えていくか、また相談させていただきたいと思います。</p>
委 員	<p>人間は生きていく上で多様な能力とか感覚があり、助けられ上手、助け上手も、生きる上での重要なセンスだと痛感しました。職場の友人で2人ほど問題を抱えていて、地域包括支援センターというところ</p>

発 言 者	内 容
	<p>があるから行かないかと提案しても、今のところ行こうとしてくれません。わからないこともないですが、難しい問題です。これから勉強していきたいと思います。</p>
委 員	<p>市民団体の活動をしている方とお話をすると、支え合いの活動の後継者、次に繋げて活動して下さる方が見つからないという話はよくお聞きします。支え合い藤塚という団体は立ち上げて数年ですので、ここからとは思いますが、例えば移動支援のドライバーさんが数人しかいなくて1人病欠されたら、どなたもないかもしれないという話もあり、なかなかその次に繋げるのが難しいと実感しています。藤塚内の回覧板でアンケートを2年前にとりましたが、地元で困っている方に対してお手伝いしたいと思う方は、多くおられる印象で、連絡先が書いてある方には連絡して一度活動を見学しませんかと活動の場を広げています。私はお休みに活動している状況ですが、土日なら参加できるなどアンケートを書いてくださる方もいます。日時を指定せず細分化した参加を募ることは皆さんの善意を集める方法としては良いと思います。</p> <p>学習支援に関して子どもたちに与えるというイメージでは活動しておらず、子どもたちにとってこの場が地域の集いの場の一つになればと願って参加しています。子どもたちが将来ここに戻ることが地元日進のためになり、そういう大人になってほしいと思いながら開催しています。長い目で、子どもたちがボランティア活動に自分たちが主体となって参加してもらえるような活動を目指しています。市でも認知症サポーター講座や福祉実践講座など子ども向けに行っていますが、こういった機会がないと子どもたちは社会課題に気が付かないので、たくさん開催して、自分が大人になったとき高校生・大学生になったときに社会に役立てるようなことができたらなと思うような子が数人でも育ってほしいと思います。</p>
委 員	<p>幸せまちづくりプランの実施状況や方針に避難所開設のことが記載されています。赤池で民生委員として避難所開設の訓練を実施しました。訓練自体はいいですが、地区の役員さんも1年で変わってしまうようなケースも多いので、民生委員からすると災害時要援護者制度の利用者人数が目標値になっていますが、地区や民生委員が災害時にどのような体制を取れるかが大事な目標だと以前から感じております。改めてここで資料を見させていただいて見方が少し違うなというのが正直な印象でした。</p>
委 員	<p>岩崎台の区長を2年間経験し、思ったことは災害時の相互協力に問題があると強く感じました。平成3年に分譲を開始した新しい団地で、歴史が浅いため地域組織がほぼなく年間行事は年一回のウォークラリーと安否確認訓練だけです。防災会という組織はありますが1年交代</p>

発 言 者	内 容
	<p>の組長が防災委員で、防災会議はうまく機能していない状態だと感じています。災害時要援護者の方は約 35 名、うち 10 名ぐらいが車いすで避難する必要があるのですが、近所の方がほとんど不参加が一番問題だと思っていました。年 1 回安否確認訓練を行い、「無事」という黄色い看板を各家庭に配布していましたが、それで機能するのか疑問に思い、「支援必要」という看板を作りました。近所の人に支援が必要かどうかを知ってもらうことが大事ですので、事前配布をしました。災害時どのように援助をすればいいか日頃から把握しておくことで援助がしやすく、いざというときに機能する制度を作っておくと、それによって日頃から近所に要支援者が住んでいるか把握でき、気軽に声をかけられるような環境がつかれると思います。</p>
委 員	<p>議題のご説明ならびに各委員の皆様のお話を受け、令和 5 年度実施状況、6 年度実施方針シートで沢山の充実した事業を日進市の中で実施されている印象をもちました。中でも社協からご報告いただいた、ボランティアに対してどう興味を持ってもらうか、知ってもらうかについては、私も大学で学生と一緒にボランティア活動をしながら地域のことを学ぶような実践をしており、ボランティアを実践すると大体は参加して良かったという印象が多いが、その一歩に至る前段では、どう言語化して伝えていくかは、同じような課題を持っていると思いました。</p> <p>委員の皆さんからもお話があったように、様々な活動の中で市民の方の影響、あるいはボランティア活動など実践者が出てくる必要があるというご意見がたくさん出ていたと思います。第 2 期プランに向けては、新たな方針の中で市民が主体的に関わってもらうことが重要だと出しており、この第 2 期にっしん幸せまちづくりプランが、日進市の皆さんの計画であり、どれだけ認知し意識してもらえかが、策定をしていく中では非常に重要な部分になると感じました。</p>
委 員 長	<p>非常に建設的な意見を多数いただきありがとうございました。</p> <p>以上で、本日の委員会の議事は終了となります。</p> <p>では、次にその他について進行を事務局にお返しします。</p>
	4 その他
事 務 局	<p>令和 6 年度第 2 回委員会については、9 月 24 日（火）を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>その他、委員の方から周知事項等がありますでしょうか。</p>
委 員	(イベントに関する周知等)
事 務 局	<p>それでは、以上をもちまして令和 6 年度第 1 回日進市わたしのまちなしあわせづくり委員会は終了します。本日は、ありがとうございました。</p>

発 言 者	内 容
	閉会